

読み初めに想う 福田光子 3

私にとっての平和協力

壽岳章子／増田れい子／中村智子／斎藤靖子／ 4

斎藤千代／荒野希里／佐藤斉一／仲村乃梨子／

久野綾子／近藤悦子／

激動する世界と国連 第45回国連総会報告会から 16

女の合従連衡 大原悦子 31

女たちから女たちへ 土井たか子ほか 32

戦争阻止に立ち上がろう 40

今月の編集は〈あこら新宿〉 159号 412円



女の講座・女のつどい

外交教室案内 テーマ 「変動するアジア諸国と日本外交の考察」

1月29日～4月9日(火) 10時30分～12時30分

会場 婦選会館 定員 50名 聴講料 6,000円(全5回)

講師 日本大学教授 浅井基文

内容 1. アジア情勢を考える上での国際環境の変化の主要な特徴(1月29日) 2. アジアの可能性と課題(2月26日) 3. 朝鮮半島情勢(3月12日) 4. カンボジア情勢(3月26日) 5. 日本の位置と役割(4月9日)

主催 (財)市川房枝記念会 ☎03(3370)0238

第123回ニコニコ離婚講座

2月2日(土) 1時半～5時。会場: 飯田橋セントラルプラザ6F

★円より子による「中高年の離婚は有利か」。★金住典子弁護士による「離婚の法律」。

参加費は1500円。電話で予約を。会場の都合で1月の講座が2月2日に変更。☎03(3402)7354

かたらいの広場特別企画シンポジウム 「家族—それぞれの自立」

2月2日(土) 1時半～4時

講師: 村瀬春樹(フリーライター) 松本侑壬子(共同通信文化部長) ますのきよし(評論家)

袖井孝子(お茶の水女子大学) 新宿区立婦人情報センター ☎03(3341)0801

びいどろぼおる

2月2日(土) 午後7時より。クレヨンハウス江坂の歓迎をかねて、ささやかなオープニングパーティを用意しています。☎わかったぶらんになんぐ06-389-0044

あけぼの祭り 新宿区立婦人情報センター ☎03-3341-0801

2月23日・24日開催

当センター利用の36個体が参加し、学習・実技・作品の発表と、講演会も織り込んだ初めての催しです。ぜひ起こし下さい。

講演会

2月23日(土) 午後1時半～

テーマー女が外に出たときー講師: 再就職アドバイザー・当センター相談員 原田静枝

こんな都知事がほしい! 女たちの集い

2月2日(土) 日 6時00～6時30 日仏会館

基調講演 神田香織 ☆もしわたしが都知事だったら: 陣峻淑子 羽田澄子 丸木百合子 俵萌子
司会 吉武輝子 「こんな都知事がほしい女たちの集い」実行委員会 ☎03(3227)2837

第11回「女は戦争への道を許さない世田谷集会」

4月21日 弓削達氏(フェリス女子大学長)のお話と話し合い。

読み初めに想う

福田光子

読み初めの一冊を、今年は再読ではあるが、E・キエラの『粘土に書かれた歴史—メソポタミヤ文明の話』とした。湾岸危機の嵐の目、イラクはまさに本書の舞台。イラクはチグリス・ユーフラテス大河の流域にひらけたメソポタミヤの「水辺の」とか「沿岸」の意味。バグダッド北方のニネヴェは古代アッシリアの首都として紀元前七世紀に栄えたが、バビロニアに征服されて廃墟と化した。

十九世紀の前半、アッシュール・バニパール王の王宮跡から夥しい数の粘土版の集積が発掘された。チグリス・ユーフラテスの川底の良質の粘土を四角に固めた粘土版に草や木や象牙で刻みつけられた二万余点の不思議な記号は文字として解読され、世界最古の図書館と判明した。人類最古の知的世界、今日のアッシリア学の基礎となった。

聖書の「ノアの洪水」と酷似した物語の発見は世界に大きな驚きを与え、神話伝説、歴史記録・占い・医学書・古代語の辞書等の内容から、メソポタミヤ地方にすぐれて高い文化が存在したことが明らかになった。この夥しい粘土版をよくぞ収集した驚異の秘密はアッシュール・バニパール王の書簡によって解かれた。彼はただの武人ではなく、ただごとではない文人で、各地の神殿や家々から粘土版を漁り、それを一か所に集め、書写専門の書記をやとって写しをやらせ古いシュメール語とアッシリア語の対訳辞書までも作らせたという。焼失や水害に弱い紙と異なり不朽の書物として数千年の間を外に闇に眠りつづけたこの宝をさがし出したのは悉くヨーロッパやアメリカ人であり、今遠く大英図書館やシカゴ大学そしてペンシルベニアの地に運び去られてしまっている。

異民族の侵略と滅亡のくり返しは七つの古代都市が興亡したともいわれる。キエラ教授の言葉をかりればヨーロッパの学者たちは回教徒を無知と考えていたとも明言しているが、さて現実には立ちかえって、米国とイラクの間には文化と物の考え方に大きなへだたりがあるように思えてならない。

古代メソポタミヤ文化にさかのぼる歴史にイラクは民族の誇りを持ち、異常なまでに面目を重視しつづけている。その代表がサダム・フセインかどうかは別として、イラクの心理に理解を示す余裕がどこにも失われてしまっていることが危機を深めている最大の理由ではないだろうか。

できることは何でもする

壽岳 章子

日本の一九九一年の正月風景、おしなべて湾岸危機の恐怖をあんまり感じていないようで、それでまた別の妙な恐怖を抱かざるを得ない。

と言って大変だ大変だと走りまわっていればいいというものでもないが、何としても我々は重く生きてゆかざるを得ないと思う。どうもボンボコリンに明け暮れてばかりはおられぬことだけはたしかだ。

では、私たちそして私、日本という地域で、平和に深くかわって暮らしている人間はどう生きるのか。去年とにかく駆けずりまわった者としてはひきつづき、あるいはなおいっそう駆けずりまわろうと思う。そのドタバタの原点、あるいはコマの軸の如きものは何であろうか。私はやはりみずからがかわる「平和」についての思念をきちんとしておきたいと思う。「平和」ということは目下巷にあふれているが、私は戦時中にはやったあやしげなさまざまのことを一八〇度転回さしたうさんくさがこのことばに感じられてならない。まっさきに、そのうさんくさを作り出したのはまがいもなき政府であった。平和協力部隊とは何ぞや。アメリカの下請け以外には何ものもない。平和ボケなどという自虐のことばもしばしばマスコミあたりが使ったが、それは無思考無行動の現象的ひっくりかえしにすぎない。

「平和」とはすぐれてみずからがはげしくかわり、みずからが創造するものであると信ずる。だから、自衛隊海外派遣反対を唱えるのは、卑怯でシビアナ場面から逃げているのではない。かく生きよと世界中に叫んでいるのである。

戦争ほど乱暴であらわれた人間の所業はない。また、戦争を肯定した結果惹起されたそれにつながるさまざまな歴史的現象がいかに辛く情けない結果になるかは、敗戦後から只今に至るまで、国内的にも、あるい

は地球レベルでも我々は見つづけてきた。

今までそうであったように、とりあえず今年も私は平和憲法のかやき、つまり一切の武器を否定し、自他ともに人を殺さないという精神を具体的な現実結びつけさせるためさまさまに動く。しゃべりまくろう。一月二日に私は六十七歳になったが、この歳月タテじゃあないぞとすこみなから生きてゆくつもりだ。人まかせにして平和は作れない。まして今の政府になんぞまかせられるものか。エイエイオウ！と私はひとり心中で叫んでいる。

アイ・セイ・ノー

増田 れい子

人類の歴史はまるで戦争の歴史のようですが、それは一面であって、いつの時代にも戦争に反対し、戦争したがる連中を許さないたたかいはあったと思います。

ローザ・ルクセンブルクがそうでした。松浦三知子さんに伺ったのですが、第一次大戦がはじまるとき、米国の女性上院議員ジャネット・ランキンさんがただ一人、「私は祖国を愛します、しかし開戦にはアイ・セイ・ノー」と表明したといいます。

彼女のほほにはそのときぼうだと涙が伝わり落ちたといいます。

女性たちは歴史を通じて「アイ・セイ・ノー」と言ってきました。その歴史の流れのスソを私も汲みたい。私たちは何のためにこの世に在るのか。すくなくとも戦争するためではない。

日本は、第二次大戦についてのきちんとした総括を行わずにアメリカと手を結び、アメリカの力による世界支配の協力者になっています。平和憲法は邪魔ものの扱いされています。

しかしそれでは世界は不安定さを増すばかり。私は自分の仕事と暮らしを通じて「アイ・セイ・ノー」をいい続けます。これまで同様、またこれまでに以上。

(ジャーナリスト)

戦中女学生の集いを

中村智子

今年の十二月八日は太平洋戦争開戦の五十年目になる。その年から「国民学校」と改称された小学校の六年生だった私は、翌年女学校に入学したが、ともに授業を受けたのは一年生のときだけだった。二年からは英語の時間は「敵性語」ということで廃止され、週の半分は学校工場で軍靴をつくる勤労奉仕をさせられた。三年生になると学徒勤労動員で、中島飛行機工場でエンジンの部品をつくる旋盤工になった。三交代制で十四、十五歳の少女たちが深夜勤もし、空襲で工場をめがけての機銃掃射を受けたりもした。私は戦災のため疎開して信州で敗戦を迎えたが、クラスメイトたちも半数は疎開し、東京大空襲で亡くなった人、満州からの引き揚げ、父や兄の戦死など、それぞれ被害を負った。

還暦をむかえることになると、生涯に歴史的事件を重ねてふりかえってみる気持ちになる。これまで戦争体験の記録はたくさん書かれてきたが、学徒勤労動員についてはあまりなかったように思えた。女学生として工場で働いたのは、私たちの上下四学年だけである。その体験を書き残そうということになり、桜蔭高等女学校十八回生の『戦中女学生の記録』を出したのは、一昨年（一九八九年）の七月七日（日中戦争勃発の日付）であった。

日の丸に「神風」と書いた鉢巻き姿の写真や、当時のサイン帳や日記、工場の報償金明細書などの資料も集まり、それぞれの手記に無知のまま戦争に協力していた少女時代がつづられていた。本の刊行をきっかけ

として、べつべつの工場に動員されたり、疎開したりで、四十五年ぶりの同期会を開き、かつての面影をなつかしがる集いをもった。

私たちの手記集にたいして、同世代の他校の方々から手紙や本が送られてきた。勤労働員時代に同じような苦難をなめた共感がこめられており、あちこちで文集がつくられていたのを知った。還暦を機に私たちも一冊にまとめるつもりですというおたよりも二、三あり、日立高女の方たちの『十四歳の戦争』というりっぱな本がBOC出版部から刊行されて、とても心づよい。私たちの体験が、けっして戦争を起こしてはいけないというメッセージとして語りつがれるよう、〈あこら〉を中心に、五十年目の開戦の日に戦中女学生の集いをしたいと思う。

『第二の侵略』を問われて

斎藤靖子

最近フィリピンの政治学者レナート・コンスタンティノ氏の最新作である『第二の侵略』という本を読んだ。それ以来私はこの本が私に与えた衝撃に打たれて、人に会うことにこのことを話し、たぶん到我々日本人について悲観的になっている。

この本には第二次大戦で日本軍が大砲と爆弾でなせなかったことをビジネスマンがビジネススーツを着込んでやっている。つまりODAという海外援助の名の下で第三世界、特に東南アジアの資源を収奪し、その労働力を収奪し、高いメイド・イン・ジャパンの製品の市場として収奪している様がこまかく書きしるされていた。

レナート・コンスタンティノ氏は、いわゆる総合商社、戦前の財閥が世界を再開発して第三世界を貧窮

のどん底に陥れて得た金でゆくゆくは軍需企業をつくって日本の自衛隊に市民権を与え、アジアの警察官となつて、アジアの大衆が立ち上がった時にいっせいに弾圧することにより、アジアの大衆が日本に敵対する事態を招くようになることに、今こそ、日本人大衆が目覚めてほしい。アジアの人々の視点で世界を見なければならぬと記している。

ここで私は悲観的になるのだが、私たち日本人はなんと太平楽で目先の生活に甘んじていて、人と違ったことをしようとか、いや自分の意見を持つとかしないのだらう。イラクの戦争危機のことでも利権の問題だが、それよりもっと今の私たちの生活自体の質が問われていると思つた。現在の生活にどっぷりつかつて自分の今の生活さえよければいいという考えから抜け出す人がもっと多くなければいけないと思う。友人がうまい言葉で表現したのでここで引用するが、私たちはいわゆる「天皇制日本人」なのだ。そうであるかぎり、大戦にころがり込んでいった精神構造と何も変わっていないわけで、歴史は繰り返されることになるだらう。

羊の平和

斎藤千代

十六、七年前になるだらうか。ある土曜、急ぎの校正で一人出勤していたとき、若い警官が突然訪れた。言葉は忘れたが、室内で張り込ませてほしいという。

そのしばらく前から「あこら」は、たびたび警官の来訪を受けていた。今の社会のありように疑問を示したことが「過激」と受けとめられていることを感じていたが、予告もなく他人の場所に居座るのは「家宅侵入」ではあるまいか。

しかし「ポリ公帰れ」と怒鳴る代わりに、私はお茶をすすめ、黙って校正を続けた。夕方までに仕上げなければならなかった校正紙を、見終わると机の向こう側に座る警官に次々に回した。——どうぞこらんださい。

『あーら』の内容が読むのには辛抱を要するものだったからか、それとも警官の「期待」に反するものだったからか、夕方のあかりをつけると、警官は一礼して立ち去った。以後、警官の来訪はばったりとやんだ。

小さな草の根の運動を権力が踏み潰すのは雑作もないこと。創刊以来、明日は沈黙を強いられるかも……という不安が完全に消えた日はない。だからこそ書けるうちに書き、言えるうちに言おうと思いつつ続けている。「核」を持つエナジーがあるなら、私は、「書く」こと、編むことに向きたい。一人の人間のエナジーは有限なもの。自分の好きな方法で長持ちさせて使いたい。

私にとっては、平和は、「生きる条件」にほかならない。

手段を尽くしても常に侵されがちな平和を守ることが、言いやすく行いがたい。身一つの平和に汲々としている身には、「協力」は僭越なことになる。せめて自分が平和を乱さない人間として生き続けるためにはどうすればよいか。私には徹底した非暴力以外、方法は考えられない。

マンモスの巨大な牙が身を滅ぼす原因になったことは今西錦司氏が指摘している。強者だけが生き残るのなら、サバンナはライオンと豹で満ち満ちているはずである。草を食む羊の上にも、光が、風が、訪れる。静かで穏やかなことが好きだから、私は無抵抗に徹したい。

といって、それは「不義を黙認する」ということではない。抵抗しないという抵抗の仕方ではマハトマ・ガンジーはからだを張って大英帝国に異議を申し立て続けた。天安門の青年は、黙って戦車の前に立ちはだかった。弱くても小さくても、百万匹の抵抗は、巨きな流れを底から変えていく力になるだろう。

人間は地球という生体の一個の細胞にも似ている。ひとつひとつの細胞が、押し潰されず、変形せず、異常増殖しないとき、地球の健康は辛うじて保たれていくのではないだろうか。

『国際社会』 海外実習

荒野希里

海外実習にいく高校三年の娘を見送るため、私は飛行場にいた。汚いジーンズにTシャツの活気に満ちた若者たち、彼らはどこへいくのか？ 海外実習とは何だろう？ 不安になって、引率の教師に尋ねてみた。

「え、お母さん、ご存じないのですか。『国際社会』は、地球人として生きるための中・高校生の必須教科です。六年間かけて、地球上のさまざまな問題、異国で一人で生きる知恵、伝えるべき自国の文化、看護や教育、農業、環境対策など実際の技術を学んだこの子たちは、今、自分を必要としている人々と生活を共にするため世界各地に散っていきます。砂漠に井戸を掘り、不毛の地に作物を実らせ、病気の子の世話をすること、一年の実習によって、彼らは言語や文化の異なる人々と肌で触れ合い、相手を理解し、自分を主張するやり方と、物事を地球的視野で考える力をつけるのです」

ニコニコ顔の娘が「毎日、実習の記録をつけて『私は地球人としてこう生きる』という論文にまとめるの。それが志望大学の入試の基礎資料になるから、どう自分らしく生きるか、みな真剣よ……」

……ここで目が覚めた。夢だったか、でもこれだ。『国際社会』海外実習で、子どもたちは受験地獄や物質づけの世界から解放され、厳しい自然と生活の中で、地球にやさしい、平和な生き方を模索する時間を持てるだろう。一九九一年元日の朝、一瞬、私は幸せな気分浸った。

*

多数の人が不満を抱き、こうやりたい夢やアイデアを持っているのに、日本の教育は変わらない。いけないと思いつながら、我々は毎日夥しい物を浪費し、地球を蝕んでいく。かつて「いやだ」と言えずに、戦場で大勢の人が大勢の人を殺し、自らも死んでいったが、それとよく似た状況が再び起こりかねない気配を感じ

る。今の私にできることは、平凡だが、納得のいかないことに「おかしい」「いやだ」と言い続ける勇氣を持つこと。あきらめず、常に周囲の人々に自分の思いを問ひかけ、語り合ひ、考え合うこと。命に敏感な子どもをもつ女性と、未来である子どもたちには、特に命を、環境問題を、平和を訴えたい。世の中を構成しているのは、どんなに非力に思えても、やはり我々一人一人なのだ。

飢餓世代の平和観

佐藤 齊一

日本が国際平和に何を貢献すべきか、いろいろな論議を読んだり聞いたりした中で、一番同感したのは、「何もするな、日本は憲法第九条によって戦争を放棄した平和国家であることを改めて世界に宣言するだけでよい」という発言であった。

軍国主義時代に育ち、戦争末期には軍需工場で働いて戦争に協力し、敗戦の苦しみも身をもって体験した世代の一員として、その後平和と戦争を考える時、いつも念頭にあったのはトルストイの『イワンの馬鹿』であった。日露戦争の時、日本の社会主義者と相呼応して反戦運動を展開したことはよく知られているが、平和思想を普遍的に、そしてこれ以上はないというくらいに平易に説き尽くした作品はない。

人間の欲望の現実の姿を軍人（戦争）と商人（経済）の二人の兄によって描き、人間のあるべき生活（農業を基本とする自給自足）を百姓であるイワンによって対置させたこの民話は何度読んでも飽きることがなく、人間の社会生活のあらゆる問題を考える手掛かりを提供してくれる。その最後のところだけ引用する。

イワンは今でも生きている。多くの人々はその国へ押しかけてくる。二人の兄たちも彼のところへ来て養ってもらっている。誰かが来て「どうか私どもを養ってください」と言えば、彼は「ああよしよし」と言う。

「いくらでもないさるがいい、わしらには何でもどっさりあるんだから、ただこの国には一つの習慣がある――手にたこの出来ている人は食卓につく資格があるが、手にたこのないものは人の残り物を貰わなければならぬ」

読まれた方はぜひ感想を聞かしてください。そして何としても読んでいただきたいので、平和運動のリーダーであった故中野好夫氏が「この本には何でも書いてある」と驚嘆しておられたことをつけ加えます。

『平和会議』を女性で

仲村乃梨子

イラクのクウェート侵攻がはじまってから、おびただしい情報が新聞・雑誌・テレビ等あらゆるメディアを通して私たちの生活の中にはいつてくる。現在進行中のことなのに、まるで歴史小説でも読むかのように、イラクの出兵、アメリカの出兵や、フセイン、ブッシュ、ゴルバチョフ、サッチャーなどが解説される。いつしか私はフセインと織田信長が重なり、湾岸危機は桶狭間の合戦のような錯覚さえ覚えるようになった。しかし、これだけたくさんさんの情報が入ってくるなかで、イラクの人たちの状態がほとんど伝わってこない。特にイラクの女性たちの声が何も伝わってこないのは不思議である。戦争でいつも悲惨な犠牲になるのは女性であり、子どもである。

そもそも中東問題は、英・仏などの超大国によって、不自然な形で国境が作られたのが発端である。クウェートは油田と、良港があったためにイラクの県から国に、英国によって三十年前に独立させられたという。湾岸諸国でも石油は一部の王族に贅沢をさせているだけで、民衆の生活は豊かとはいえない。

日本だって石油を使うことによって生活は便利になったが、便利さの裏で失ったものは多い。環境汚染を

はじめ、アレルギーの子どもが多くなっているということは、人間社会に赤信号がともっているということではなからうか。一番弱いところに矛盾が集中するのが常であるから。

そんな時、『あこら』特集32号の「ナイロビが語りかけるもの」を読んだ。『あこら』のなかでは飛び抜けて鮮やかな色彩の表紙である。その色彩どおり、素晴らしい女性の会議だったことが行間からうかがえる。昨年十一月十七日に「一九九〇年民間女性会議―平等・開発・平和」が五十団体の主催で東京でひらかれたが、こうした女性会議こそが平和を作っていく原動力になるのではないだろうか。

イラクの女性をはじめ全世界の女性たちが集まって、平和について話し合い、同時にエネルギー問題、環境汚染問題、子どもについてなど、ボーダレス的に話し合えたらどんなに素晴らしいことかと思う。

相手をよく知ることから

久野綾子

まず相手をよく知ることだと思う。新年初の読書、斧泰彦著『十五億の蟻』（田畑書店刊）から、そう学んだ。

本書は新聞記者として三十年に及ぶ香港、台湾、中国、シンガポールなどアジア特派員生活を通して、中国を内外から見続け、中国への深い愛に基づいた辛口レポートである。同じ人間として、地球人としてわがことのように、何としても十五億人の生活を向上させたい願いが、一貫して本書に流れている。庶民の生活意識を核に、政治、経済、社会、文化、歴史の幅広い視点から問題点をありのまま指摘、絶望的に思える無数の難題の中に活力と希望の芽を模索、社会システムと意識の変革に期待を寄せる。華僑の卓越した活躍を例に引くまでもなく、中国人の可能性は無限大と著者はいう。

北京生活三年間に、電球二百個が切れたという。これは労働者の質と産業経済の現状を端的に象徴している。中国人の一人当たり平均学校教育は四・八年。大学生は人口一万人に四人。知識が多ければ多いほど反動の風潮が支配すると人材育成がおざりにされた結果、中国社会全体を沈下させている。

教育軽視は異常な数字となって表れる。低賃金、きつく厳しい仕事の上、「家に食べ物がなくても男は小学校教師にならぬ」という伝統的偏見から、都市部の小学校教師の女性化が著しい。天津市では九四パーセントが女性という。笑うに笑えない女性の社会進出である。権力をかさに横暴を極める幹部や役人に対し、放尿や殺傷など庶民の抵抗もすさまじい。

読み進むに従い、無知の怖さが骨身にしみる。無知が偏見を差別を貧困を、社会全般の困難と混乱を、そして対立と憎悪を深めることを理解する。中国人のみならずまさに私たち自身の問題である。

共産主義体制、天安門事件が私たちの前に立ちはだかり、中国は理解不能、恐怖感がうずまき、おっかなびっくりのてい。在日中国人へ露骨な差別をする。知らない和无用の摩擦を起こしやすい。

本書は日常生活の意識に主眼をおいた軽妙な筆致で、わが身を鏡で見るような示唆に富む内容であった。相手をよく理解することが、希望のエネルギーを生み、平和を確実にすることを本書を読み改めて実感した。

(『おんなの反逆』編集者)

私にとっての平和協力

近藤悦子

中東問題は私たちに平和の意味を改めて問いかけ、真の平和協力について考える契機となった。「国連平和協力法」は廃案となったが、湾岸危機の深まる中で、更なる貢献の要請が予想され、平和協力のあり

方について、日本政府と日本人は今後も問われ続けていくに違いない。

さて、私にとつての平和協力とは？ 自分自身の中に平和を創り出す哲学が確立しているか、内なる差別と偏見とが払拭されているか、改めて検証しなければならない。国レベルでは、次元の高い平和憲法をもつ国として、どのような状況にあるうとも、武力による解決には組みしなない姿勢を世界に表明し、共存共生の道を模索していかねばならない。そのためにも、自衛隊・軍事費・大嘗祭など、自ら憲法に触れている日本の状況を変えていく責任も課せられている。

国連児童基金（ユニセフ）の『一九九一年世界子ども白書』によると、世界の子ども達の現状は、毎週二十五万人が病死、三人に一人が栄養失調のため発育を阻まれ、世界中に三千万人もの子どもが飢えと戦争による被害の中にいる。これに対する先進国からの援助は、開発途上国の人々が必要としている分野にはわずか三パーセントしか回っていないと訴えている。この悲惨な状況を解決するための基本的な、保健・栄養・教育・水と衛生に、年間二百億ドルが必要であり、この二百億ドルは世界の年間軍事費のたった十日分だと指摘している。大人たちの戦争の犠牲になっている同じ地球上の子らの状況について、日本の親や子は理解できにくい不幸な“豊かさ”の中にあるのではないだろうか。

日本のODAは九〇年度に世界第一位の一兆四千億円となり、この莫大な費用が、地球環境を破壊し、貧しい国から根こそぎ富を奪い取っている現状は許せない。ODAの用途について学び、知らせ、監視する責任も私たちにある。

一方、NGOの団体には、“アジアの呼び声にこたえて”医療関係者を派遣し続けたJOCsの三十年に及ぶ運動があり、シャブラニール―市民による海外協力の会は、バングラデシュの水害と貧困に喘ぐ人々と共に生活しながら、彼らの自立を助ける草の根の日常活動が続けている。

南の国への若者たちの心の傾斜に、共生への芽生えを感じて心強い。志高く生きる若者たちを支え、弱い立場の人々の課題を自分に引きつけて生きる、その思いの中でこそ“私にとつての平和協力”を確かめられると信じるから。

（女は戦争への道を許さない世田谷集会世話人）

〔集会から〕

激動する世界と国連 第四十五回国連総会報告を聞く

七五年、八〇年、八五年の三回の世界女性民間会議に参加して、私たちは、国連とNGO（非政府機関）が、女性差別撤廃に果たしている役割の大きさを痛感した。国際的な女性差別撤廃方針策定の場としての国連の動きは、一年の計を立てるうえに、そして、二〇〇〇年への十年間を考えるうえに、見のがせないものの一つである。

ことしも、国連NGO婦人委員会（大学婦人協会など十団体加盟）の主催で、国連総会報告会が、一月十一日婦選会館で開かれた。

全国組織五十二団体による〈国際婦人年の決議を實行する連絡会〉に〈あこら〉も加盟している関係で、ご招待を受け、報告会に参加した。それぞれの団体に持ち帰り、国連の活動を知ってほしいという主催者の意を受けて、当日の概要をお知らせしたい。

〈日本婦人有権者同盟〉会長・松浦三知子氏の司会で、まず主催者代表、大羽綾子氏から、国連の第三委員会に毎回NGO女性団体からの代表を日本政府の代表団に送り込んできた経過、それにより国連の活動を日本の女性たちが知り、活用した業績が語られ、大羽氏は、「今後は第三委員会だけでなく、安保理にも女性代表を送りたい」と、力強くアピールした。続いて中山外相からのメッセージ、「冷戦は過去のものとなった。今や対立から対話の時代。国連

が成否のカギを握っている。昨年、緒方貞子氏が、国連の閣僚級にあたる国連難民高等弁務官に推されたのは、日本の活動が評価されたもの。今後とも日本は国連中心主義で平和に貢献したい」を、外務省国際連合局長が代読。代読した赤尾局長は、続けて昨年の第四十五回国連総会の概要を明快に説明、それを受けて、NGO女性団体から推されて政府代表代理として出席した江尻美穂子氏が、生き生きとしたことばで第三委員会の状況を話してくださった。

ポスト冷戦構造を如実に示した第四十五回国連総会

外務省国際連合局長 赤尾信敏氏

国連総会は毎年九月の第三火曜に始まり、クリスマス直前の金曜日に終わる。今年は九月十八日から十二月二十一日までが会期だった。この会期中、外務省国連局長は少なくとも一、二回は出席するのが慣例だが、今年は国連平和協力法案に追われて出席できなかった。以下は、東京で掌握した報告の範囲内の印象であることをお断りしておく。

裏舞台も華やかだった今年の総会

国連総会では、冒頭、各国外相が中心になって代わる代わる一般演説を行うが、これと併行して、それ以上に重要なのは、二国間、または数国間の個別会議が持たれることである。子どもサミットで始まった今年の総会には、各国外相に加えて世界七十一か国の元首・首脳クラスが出席、個別会議も例年になく活発だった。毎年五、六月に行われるサミットを受けたG7（サミット七か国）の外相会議が行われるのも、この数年の恒例だが、これに加えてポスト冷戦構造をめぐる主要各国の会議も、冒頭の二週間、

頻繁に行われた。

日本は、米・英・ソ・中と二国間会議を行ったほか、アジア太平洋外相会議を開いた。アフリカ諸国を招いての昼食会や夕食会も行った。

ここで国連の仕組みを簡単に説明する。国連には本会議と七つの委員会がある。いくつかの重要テーマが本会議で取り上げられるが、多くのテーマは分科会方式で委員会で討議された後、本会議で表決されることになっている。七つの委員会の担当は次のとおりである。

第一委 （軍縮およびその関連の国際安全保障問題）

特別政治委員会 （特殊な政治問題）

第二委 （経済・財政）

第三委 （社会・人道、文化）

第四委 （植民地・南ア等の問題）

第五委 （行財政。実行に予算を要する決議は、すべてここで再審査され、予算が議論される）

第六委 （法律）

冷戦で増大したアメリカの独走に危惧の声

第四十五回総会にはいくつかの特徴がみられた。主なもの
を列挙しよう。

(1) 国連の役割が改めて見直された。

安保理を中心としたクウェート侵攻に関する問題がその
典型。対立・対決が、協調・調和の方向に変わり、世界が
動いたことを反映して、国連の役割がクローズアップした。

(2) 中東湾岸問題に関心が集中した。

従来は東西・南北対立、アラブと西側諸国の対立、南ア
問題をめぐる対立の四つの大きな対立があり、決議も強行
採決されることが多かったが、今年は争点が少なかった。
特にアメリカが本来なら自らを強く主張する局面でも、湾
岸問題の支持を得るために、強硬な態度を控えたので、比
較的スムーズに進行した。

(3) クウェート侵攻問題の解決に国連が有効な役割を果たす か、試金石となった。

このため安保理常任理事国五か国中、四か国（中国を除
く、米・英・ソ・仏）が珍しく結束した。アメリカはレー
ガン時代国連離れで、国連の分担金も二年近く滞納してい

たが、国連の積極的活用に向転換、ブッシュ政権は、米
国国会の諒承を得て、五年分割での納付を公約、九〇年を
第一年分として滞納金の納付を開始した。これに対し一部
の国、特に非同盟諸国から、国連がアメリカに利用されて
いるのではないかという危惧の声も出てきた。国連の信頼
度を高めるためには、そういう危惧も排除しなければなら
ないのではないかと、我々も考えている。アメリカの提案
したイラク制裁の十二本の決議を通すにあっても、国連
の事務局も事務総長も十分な相談を受けず、ほとんどアメ
リカのペースで英・仏と協議して進められた状況があった。

(4) ソ連、東欧圏問題がクローズアップした。

従来、ソ連・東欧は、国連を共産主義思想・社会主義体
制の政治的宣伝の場として利用してきた観があったが、こ
こ二年ほど、特にゴルバチョフ政権になってから、国連を
国際的安全保障の場として積極的に活用しようという方向
転換が新思考外交の一環として始まった。去年の十月には、
事務総長に「冷戦後の国連の役割」という包括的な提案を
提出した。この提案は、いろいろな内容を含んでいるが、
安保理の強化のほか、国連事務総長の調査権限の強化、国
連軍発足までの暫定的措置として、待機軍・監視団を設け
ること、その監視団にソ連も自国軍を出す用意があること

などが含まれ、政治面だけでなく経済面でも国連を活用する方向に転じたことが示された。

従来ソ連は、米国と並ぶ大国の權威を誇示しようと、国連の分担金も、米国25%に対し、11・57%を拠出、11・38%の日本の分担率を抜く第二位を保ってきたが、今度の総会では「経済力を反映した分担金」を強く主張した。これは、即、日本の分担率の増加となるので、日本は猛烈に反対して、結局、可決には至らなかった。何年か前、イギリスと同じ5・6%の分担金を拠出していた中国が、小平時代に自ら貧しい国であることを表明して急きょ0・88%に下げ、日・独が肩代わりした経過があるが、今回のソ連の動きは当時のことを思い出させた。

従来、決議や投票でソ連と同じような行動をとってきた東欧諸国が全く自由な行動をし始めたのも顕著な傾向だった。東欧だけでなく、ソ連内のウクライナ、白ロシアなど、独自の投票権を持つ共和国が、チェルノブイリ問題などで必ずしもソ連と一致しない行動をしたり発言をしたことが注目された。

その一方、東西対立の解決により、従来国連内で非常にウエイトを占めていた非同盟諸国の存在意義が薄れて来たともいえる。イラク問題をめぐり非同盟の中の足なみが乱れたことに加え、ソ連が非力化したことにより、アメリカ

がますます横暴になるのではないかという危惧が持たれている。

これからのメインテーマは地球環境と人権

(5) 経済社会分野における国連の役割の拡大

地球環境、麻薬、難民、人権等についての国連の役割が重要視され、各国の期待も大きくなっている。九二年にブラジルのリオデジャネイロで国連の環境開発会議が開催される。それに向けて九〇年から準備会議が始まっている。

従来国連での環境問題の目玉は地球温暖化であったが、第四十五回総会で、政府間委員会を設立し、枠組み条約交渉を行うという決議が可決された。第一回委員会は、二月上旬、ワシントン近郊で開催される。この会議は、UNEP（国連環境計画）とWMO（世界気象機関）が支援しながら交渉を進めることになっており、環境問題における国連の役割はますます重要になっていくと思われる。

(6) イデオロギーを捨てたスムーズな進行

例年、パレスチナ、南ア、カンボジア等、紛糾する問題が多かったが、多くの途上国が原理・原則主義を捨てたため、比較的スムーズな合意が得られたのも今年の特徴だっ

た。毎年代表権問題でもめるカンボジア問題も、全会一致で最高国民評議会に決定したため異議が出なかった。(この評議会はまだ発足していないので、カンボジア代表は誰も出席しなかったが)。安保理の五大常任理事国が中心になって、カンボジア和議のための包括的な和平提案をつくり、支持を受けた効果も大きかった。

韓国の国連加盟問題は、韓国は急いでいたが、急ぐと中国との国交回復に影響する配慮もあり、今回は見送った。同時にソ連とは国交を結び、中国とは経済面を中心に関係を変えていくという現実的な選択がとられた。

(7)後退したG77(途上国グループ)勢力と援助制限

経済問題では、政治問題で非同盟諸国の力が弱まったのと同じように、G77の後退が感じられた。七〇年代、八〇年代に過激なイデオロギーに基づいて、新国際経済秩序の樹立や、南北包括交渉を主張してきたG77だが、イデオロギーでは状況が改まらないことがわかってきた。八〇年代の第二次石油ショック以後、特にアフリカ・中東でマナス成長が連続、八〇年代は経済成長における失われた十年となった反省から、先進諸国と協調して人間らしい生活を求めるように方向転換した。同時にソ連・東欧圏の貧困化は、従来、途上国に向けられていた援助予算がそ

ちらに回るのではないかという心配を抱かせている。昨年四月の経済特別総会でも大きな争点になったが、今度の総会でも、途上国の犠牲による東欧援助が問題視された。

安保理にも女性メンバーを

日本は経済社会委員会の理事を八二年以来三期九年間連続して勤めてきたが、九一年以降も三年間引き続き理事になれるよう選挙運動している。この委員会の理事になることは、女性の地位委員会、ユネスコ執行委員会等、二十近い下部機関のメンバーを選ぶ権限も与えられることになるわけで重要である。しかし他国には、日本はいつまで続けるのだという不満がある。

大羽氏からは、安保理にも女性を、との要望があったが、今年秋の総会選挙で当選を目指して選挙運動を続けている。日本は過去六回勤めており、今度当選すると七回目どの国よりも多選となる。それだけにアジアグループの中では日本への風当たりが強く、警戒しながら選挙運動をすすめている。

国連難民高等弁務官には、事務総長が緒方貞子氏を指名、総会の決議で選任された。今回は、十名の候補者があり、カナダの女性候補はじめ四名は閣僚経験者という大物揃い

だったが、退けて選任されたのは光栄だった。難民援助は非常に重要な仕事で、日本は従来経済面で米國に次ぐ援助大国だったが、今後は人的な面でも貢献したいものである。今回の総会とは関係ないが、毎年のように日本が要望している「旧敵国条項」の廃止問題がある。国連憲章第五三条と一〇七条には、日・独・ハンガリーなど、旧敗戦國に對する差別規定があり、日本はその削除を要求し続けてきたが、従来は、英・仏・ソがベルリンを管理する根拠をここに求めていたため、どんなに要求しても、アメリカさえも反對していたが、ベルリンの壁の解消により、解決の道が開けたわけで、その方向に努力しなければいけないと思っている。

国連平和協力法の新しい案は、自・公・民三黨の諒解を基に秋の国会では通したいと思っている。國際條約の批准は、日本の国会は審査が厳しく、提案がすべて通るわけはないが、麻薬規制取引に関する條約は今回には間に合わないが、できるだけ早く通したいと思う。兒童の權利條約は署名を終わり、今年の国会に間に合うよう作業を進めている。社會黨などからは人種差別撤廢條約の批准を迫られているが、國內法の段階で法務省や裁判所の所管の部分が多くなかなか進まない現状であることをお断りしておく。

Q HABITATの活動の現況は

HABITAT（國連人間居住會議）は國連の新しい機關の一つで、途上國の人間環境を改善する活動、たとえば途上國の家のない人に住居をつくるなどを掲げている。日本の國會内にも、議員連盟があり、中西珠子先生などが活躍しておられる。一昨年九月に日本の外務省とJAICAの主催で四十人ほどの世界の國會議員を日本に招いて世界議員會議を開いた。年間七十五萬ドル各國で拠出している。

Q イラク問題で事務局がほとんど相談を受けなかったというが、武力容認などは超法規的な決議ではないか。

國連憲章の下で強制的な措置を行使できるのは、四一條の經濟的な措置である。それがうまくいかない場合は四二條で國連軍の發動を認めている。四一條を担保するために海上で臨検する等の行為は、國連憲章には明確ではない。

第七章が、國際の平和に関する規定だが、今回の決議はこれに基づいて決定したものだとういうのが外務省の見解である。武力容認は、アメリカが常任理事國をまず動かし、次に他の理事國にも交渉して決議したが、結果的には國連で決議されたものとして容認する立場を外務省とっている。その後、これに関して國連事務局の法務部とも相談したが、國連憲章に違反するとは言っていない。

人権と差別撤廃が世界のトレンド

日本政府代表代理 江尻美穂子

(津田塾大学教授 日本キリスト教女子青年会会長)

総会全般については外務省からお話があったので、私は、自分が参加した第三委員会の模様をお話します。

先程局長から、総会と委員会の概略のご説明があったが、委員会は加盟百五十九か国全部の座る席があり、オブザーバーの発言の機会もある(表決権はないが)。

委員会は十時から十三時、十五時から十八時の一日二回会議があるが、G77とか第三委員会、合理化に関する特別の会がある時は会議はない。夜のセッションも数回あったが、午後の部が終わったあと、五十分の休憩の後に始められ、今回は、夜中までかかることはなかった。

私は、実質討議が始まった十月八日の第三会議から出席、第六十二会議まで参加した。最終の十二月五日、第六十三会議にだけは帰国したため参加できなかった。

(十一月二十九日で終わる予定だったが、表決でなくなるべくコンセンサスを得ようと会議が延長され、十二月五日となった。)

日本独自の提案はゼロ

決議草案は九十四本。提案は一国だけが提案国になるものと、児童権利憲章(条約)の早期批准のように約九十か国が提案国になったものもあったが、日本が共同提案したのは十二、日本が独自に発議したものはゼロだった。九一年は日本が主提案国として決議草案を提案したい。

内容はa hの八部門に分けて次々審議された。一般審議はそれに関係ある国連機関の事務次長や委員長、特別報告者などの報告や問題提起がまずあり、その後、各国がスピーチする。発言の順序は申込順だが、大体の傾向として、締切間際にスピーチが集中しがちで、各部門の終わり頃には、一日四十もあって、ナイトセッションになったり、翌日にずれこむこともあった。初めのうち、十二時頃で終わる日もあったのと対照的だった。

スピーチが終わると次の部門に入るが、それについて決

議を出す時、共同提案する国を募る。全員一致で決議草案を通すがムリと思われるものは、草案段階から修正することになるため、締切りが延期されることもあった。部門ごとにたくさん資料が出るが、ぎりぎりに出るのでとても読みきれない。早く資料を、との要望は度々あったが、いつもその部門の討議開始の前日から発表直前になりがちだった。

第三委員会の議題についてすべてを語るとすれば膨大な時間が必要になる。私が特に関心を持ったものに重点を置いてご報告したい。

(a) 人種主義、人種差別、民族自決に関するもの

第三委員会の基本的な問題なので、スピーチは各国同じ問題について言及されることが多かった。政治的に偏るものは、第一委等に回すようにとコメントがついた。たとえばイラク問題などはクウェートの人権がいかに侵害されているかという視点から報告され、日本も含めたほとんどの国がイラクを非難し、無条件撤退を要求した。

南アのアパルトヘイト解消についても各国が歩調を合わせた。特にアフリカ諸国は、デクラーク政権になって差別が緩和されたような印象を与えているが、あれにだまされてはいけない。現実はまだまだだ。アパルトヘイトは部分

的な改善や改良でなく、抜本的な廃止が必要だ、と強い口調で訴えた。

その解消のためには南アの経済制裁が重要、と指摘され、テクノロジーや兵器の輸入が制限されていたら、問題はもっと早く解決されていたはず。南ア政権をいかなる形でも援助することは、人権に対する逆効果となる、と、アパルトヘイト完全撤廃まで制裁を続けることが確認された。

クウェートは、イラクから脱出した証人にも発言させてアピールした。パレスチナ問題では、子どもたちにまで暴虐が加えられている情況が報じられた。

民族差別・人種差別を撤廃し、人権が守られなければならないことが繰り返し訴えられたが、自国の中にも、少数民族や原住民問題があることを正直に認めたのはカナダくらいで、在日、アイヌ、被差別部落などの問題をかかえている日本も、自国の実状にはふれなかった。

イラクはどのように対応するのか注目していたが、「皆さんはウソの報道に惑わされているのだ。クウェートは、我が国の県の一つだ」と終始主張した。戦前、国際連盟の時代に、日本が満州の問題で糾弾された状況はこんなものだったろうか、と思ったりした。

席はアルファベット順なので、日本はイラクとクウェートに挟まれ、両国のそれぞれに近かった。クウェートの代

表がイラクを指さし、にらみつけるように糾弾した時は、自分がにらまれたように身がすくんだ。四面楚歌の中でイラクはそれでも一貫して自国を弁護した。国際会議場での国の立場をまざまざとみせつけられた思いがした。YWCAなどでは国を離れた自由な発言ができるが、国連とはずいぶん違うと感じた。

話題を集めたのは、"カリファ・レポート"だった。Khalifa氏はエジプト出身と聞いた。人権委員会のサブ・コミッティの「差別防止と少数民族保護委員会」の特別報告者だが、南アの状況について「どの国の何という企業がどういう行動をしている」という非常に詳しい報告書（カリファ氏による）を提出しただけでなく、第三委員会でも特別報告もした。経済制裁を強めなければいけないのに、ゆるめている国があることや、裏口貿易の巧妙な実例などを東欧諸国や英国を名指して実に具体的に話した。日本についての言及はわずかだったが、別会社をつくったり、現地法人と提携して巧妙に取り引きしている実態が語られた。日本は「報告は偏っている所も誤っている所もある。日本は輸出も輸入も減らしている」とさっそく抗弁した。アバルトヘイトの問題は、すべて悪いと、私は単純に考えていたが、国際政治の場では、非常に厳密に決議草案に沿って字句が検討されなければならないことを知った。

これら差別の問題や民族自決の問題の多くは、投票に持ち込まれたが、日本は、賛成票を投じたものは一つもなく、反対または棄権した。たとえば「カリファ・レポートは非常に良い報告だ」という前文がついているようなものとか、南アがせっかく人種差別について改善の努力を示している今、厳しく糾弾すると逆効果になるという配慮に立ったり、決議案の表現がどぎつすぎるものなどは、反対または棄権した。決議案は全文一括して表決するのが普通だが、中には、あるバラグラフについて問われることもあり、アメリカだけが反対票を投じたものもあった。今回は東西対立が少なくなつて常に賛成票が多数を占めていたので、日本が反対や棄権に回つたために否決された項目はなかった。雪どけでソ連の影が薄くなったことを、特に第三委員会では感じた。東欧諸国が民族自決でソ連から自由になっていることも感じられた。

ナミビアの独立は全員が非常に喜んで祝意を表した。人種差別が悪いことは、皆、頭ではわかつているが、解決への道のりは現実には遠いことを感じさせられた。

(b)世界社会状況、障害者、青年、高齢者問題、国際家族年
ここでは貧しい国がマイナス成長を続けてますます貧しくなり、南北格差が拡大していると同時に、障害者、高齢

者、子ども、女性など社会的弱者の人権が侵害され、多くの子どもが死に、青年に希望がなく、いろいろな問題が起きていることが問題提起された。目や耳の不自由な人、車いすの人など、障害者自身も発言し、障害者があわれまれるのではなく、社会参加できる社会を、と訴えたのが印象的だった。国連障害者の十年（一九八三―九二）の国際行動計画実施状況、二〇〇〇年に向けての展望等も語られた。今回、三か国（デンマーク、スウェーデン、オランダ）ながら青年代表を送り込んだ国があったのも注目された。

その中のデンマークの人が、若い人を国連に送り込んで国連の意義を若いうちから知り、行動に参加することが大事ではないかと発言したので、若い人とは何歳くらいか尋ねた。青年団体の連合体から推薦された若い人が代表になるので、特に年齢制限はない、とのことだった。（日本からも他国からも若い人の参加はあったが、多くは外務省など政府関連の人のようであった）。

青年のスピーチは、ベテランからみれば青臭い感じのものもあったが、「軍備に使う金を節約して世界の環境改善に向けるべきではないか。自分たち自身の生活を変えるべきだ」といった訴えは、「若い者の理想論」と片づけず大切にしていくなければならないかと感じた。

一九九四年が国際家族年にもなっているため、家族の問

題も大きく取り上げられた。女性差別、高齢者問題、青年問題等、あらゆる問題の根源に「家族」があり、それが解決すれば問題も解決する部分があることが指摘された。日本など先進国では、核家族化による孤老の問題などがあるが、第三世界では高齢者も家族の一員として大事にされている反面、急激な都市化などの影響で家族がこわれつつあり、高齢者の問題も始めている。「口先ではダメ、実践の時代」というスピーチが心に残った。

九五年の世界女性会議にオーストリーが立候補

(c)女性の地位向上、女性差別撤廃状況

この部門はスピーチが非常に多く、およそ八十か国が演説したため、予定より一日のびた。九割が女性だった。

日本は八部門のすべてでスピーチしたが、ここでは私が発言。予定原稿に若干自分の意見を入れさせて頂いて、日本は世界の女性解放にどのように貢献できるかを語った。日本の実情も報告した。

日本同様、法的には平等になったが現実の差別が解消されていない状況を訴える国が多かった。特に貧しい国々は女性差別もまた大きいことが報告された。女性の教育が遅れ、識字率も低いという報告が多かったが、国によっては、女

性が高い地位に就いていることを誇る国もあった。特に印象的だったのはミャンマーで、「女性には常に解放されて来たから、女性の解放などは問題でない」と明言した。もっと本音で語り合う場でありたいと思った。

障害者、青年、高齢者とともに、女性をもっと政策決定の場に送り出していくことの重要さも訴えられたが、日本も、もっともっと努力しなければと痛感した。

それに関連して、国連事務局の女性採用問題も論じられた。本家本元で、九〇年の目標がまだ30%、毎年1%ずつ上げて35%にしたい。数にもまして、高い地位に女性が少ないことも問題。世界の範となるように、との声があった。途上国の女性が人間らしい生活ができ、教育が受けられるように、UNIFEMに一層力を注ぐという決議も出た。

世界女性会議は二〇〇〇年に大規模な会議が開かれるが、一九九五年にも中間会議がある。開催地は九二年までに決定することになっているが、オーストリーが「皆さんを招待したい」と、立候補の意志を示した。各国がその招待を歓迎するスピーチをした。オーストリー代表は、その後、

アジア各国代表を招いて、「オーストリーは東欧にも近く、国連婦人の地位委員会の事務局があるので、経費も節減できる。ダニューブ川に人工の島をつくってNGO会場にする。政府間会議場はこれこれ、予算もこれだけ計上してい

る」などと、かなり具体的に説明したが、インドネシアなど、何度も国連総会に出席している代表たちは、「我が国の政府は立候補しないと言ったのか」などと質問していた。その後、フィリピン代表がスピーチした際、「今度は地域的にアジアの番だ」と、水をさした。日本はどうすべきか、今後に向けての課題だと思う。

(d) 人権確立、人道的援助、犯罪防止

ここでは、組織的犯罪が急増していることが大きな問題になり、国際的協力の必要性が確認された。

アメリカは人権を増進する方法の一つとして私有財産権の尊重を提案、日本も共同提案国となって、結果的には可決されたが、キューバ等から反対意見が出た。国際的提案はいろいろな角度から考えなければならないことを考えさせられた。人道的援助では、災害時に協力して迅速な援助をすることが決議された。また、犯罪者の人権を守ることにも提起された。

(e) 麻薬問題

国際協力、国連機構の改革、教育の必要性が協調されるとともに、貧しい国の貧しい人びとが原料を栽培していること、その生活保障も重要なことが提案された。

麻薬に関しては、日本は今まで水ぎわ作戦が成功、アメリカ等よりは犯罪が少ないが、最近アメリカの規制強化に伴って日本への上陸が心配されている。いわゆるヤクザがらみで一般人には無縁と考えられがちだが、エイズとの関連なども問題になっており、決して等閑視できない。日本でもタイでも専門家会議が開かれる予定である。

(f) 人権に関する諸問題

人権と科学技術の関連、コンピュータに入力されるデータのプライバシーの問題等、新しい問題とともに、国際人権規約や、児童の権利条約の実践等が論じられ、基本的には幼時からの人権教育が重要であることが確認された。精神障害者の人権問題も討議され、日本の現状を心配している私には参考になる意見も多かった。

拷問その他非人道的処罰の廃止も論じられた。障害者や犯罪者も含めて、すべての人が差別されない社会をつくっていくことの大切さと、その道程の長さを改めて感じた。

興味深かったのは、この部門で「定期的かつ公正な選挙の実施」が取り上げられたことである。現在ミャンマーの問題があるが、非常に大事な問題だと改めて感じた。しかしこれについては内政干渉だという抗議の声も出て、非常に紛糾し、なかなか表決に至らなかった。日本はアジアの

一員として、スウェーデンが主提案国になって提案している「ミャンマー政府が九〇年五月の選挙結果を尊重することに關する決議案」が上程されないと、ミャンマーの現状を認めることになることを心配、結局議決の一年延期を提案し、受入れられた。非常に都合のよいことに緒方先生がミャンマーの調査委員会に加わっておられるので、その報告を聞いて、九一年に決議することになった。高等弁務官の選任に当たっては、「緒方とは何者か」という声もあったのだが、ここで緒方さんの名前と業績を披露できたのは幸いだった。

(g) 国連難民高等弁務官 (UNHCR) 事務所

世界の難民の現状が述べられ、「経済難民」(経済的窮乏による国外脱出)、「国内難民」(国内での強制移住)などが増えていることも報告され、国際的な支援が決議された。日本では関心の薄い問題だが、国際的大問題であることを感じた。

(h) 経済社会理事會報告による各国の人権侵害の現状

これは非常に微妙で、他国のことを述べると、報告者の国はどうか、と追求されることになる。

しかし、国連での追求により抵抗グループの人権が守ら

れる結果を生むこともある。エルサルバドルの抵抗グループの人から面会の申し入れがあり、人権が守られるよう援助してほしいと依頼されたのは、その一例である。

アメリカがキューバを非難した時は、キューバはアメリカ国内の人種差別的激しさ、ホームレスの問題などを激烈にせめた。スペイン語の演説の中で、ホームレスだけは英語を使い、「スペイン語にはこの言葉はみつからない」と皮肉をこめた。今年は比較的激論が少なかった中で、アメリカとキューバは事ごとに反発し合ったのが目についた。

各国の人権侵害例はすさまじく、裁判を行わない処刑、行方不明者の実情がなまなく報じられた。

移住労働者、およびその家族の権利の保護に関する国際条約は、日本にとって大きな関心のある問題だが、日本は躊躇している。内容的には非常に良いことが書かれており、私は個人的には賛成であるが、条文では、移住労働者だけでなく、不法労働者と、その家族も含めることになっており、たとえば家族とはどこまでを含むか等々、現実には、さまざまな課題が含まれているため、日本の代表団の中には「投票に持ち込んで反対する」という意見の人もいた。しかし、長い間かかって多くの人が苦勞してつくりあげた条約に日本が反対することは問題なので、投票なしのコンセンサスで通過した。日本同様、批准には時間がかかると

いう感想をもらす国もかなりあった。

その他

国連の主テーマは、かつては政治、領土で、第三委員会はおそえものだったと聞いたが、現在は、人が生きること、生きる権利と最も密接に関係している第三委員会が、国連の中でも非常に大きな地位を占めるようになったことを感じた。国連の七つの委員会の中で、女性が多いのは、この第三委員会だけで、第二委員会などはほとんど男性で占められている。

国連の場では政府代表として出席しているので国益に反することは言えない。人権のような問題では、国益優先では、どうしても矛盾が生じる場合がある。これからは、ある程度国益を離れて、地球レベルで考える方向にいかないものかと思った。

国連の基本は世界平和、人権の尊重だが、分担金の25%を分担していたアメリカが二年間も滞納したり、現在、深刻な財政難である。大きな課題の一つである。

NGOの重要性も言われ、スピーチの中にもNGOとの共働、協調にふれるものが多かった。

以下、お話ししたいことは山ほどあるが、時間になったので質問に移らせて頂く。

Q 国連は人権分野で今後どういう活動をしていくべきか。非常に大きな質問で簡単には答えられないが、ユネスコなどと協力して、小さい時から教育することが重要ではないかと思う。いろいろな資料の作成も必要だろう。

人権侵害が行われている所には、さまざまな形で働きかけることが必要。国連が方針を出している時に、陰で反対の方向に援助するようなことは慎みたい。南アの経済制裁でも、日本は非常に遅れをとっている。自分の会社大それた思想で経済成長し、私どもも恩恵を受けているのかもしれないが、経済的成長は少し我慢しても正義のために尽くしたい。初歩的なことかもしれないが、一人ひとりが人権を大切にして、自分がどう生きるにかかっていると思う。国連は人権尊重の決議を出していく組織、そして少なくとも、出した決議の実践はその決議に加わった各国政府に責任があるわけだから、実行することが大切だと思う。第三委員会には特にそういう決議が多いので、実行することがたくさんある。NGOとしても活動すべきことが数々あると思う。

〔発言〕ウィーンで九五年に会議を…との招待がでたことについて一言。

一昨年、第三委員会でも婦人問題に関する決議を出したと

き、九五年の世界会議は、できる限り費用のかからない方法ですという一項が入った。ウィーンはそういう意味で立地的にはよいと思う。地域的にはアジアが望ましいが、そういう発言があったことを前任代表として付言しておきたい。(発言者は一九八八、八九年の代表代理)。

青年代表の必要性については、全く同感。一昨年は天安門事件で中国も非難を受けるかとヒリヒリしていたが、それぞれ大人の態度で沈黙していたところ、デンマークの青年代表が率直に批判した。若い人が正義感に燃えているいろいろな思惑をこえて、堂々と発言するのは非常に貴重なことで、若い方の参加はすばらしいと思う。私も、国連に出ることによって教育を受けた。女性の代表とともに若者の代表も出すというご意見に大賛成である。

Q UNIFEM(国連婦人開発基金)への協力について、もう少し詳しく説明を。

みんな協力しよう、我が国はこれくらいの額を拠出する、女性の開発に現実に役立っているので、推進する、等のが話がされた。日本はかなり期待されている。

Q 国際婦人年連絡会の全国集会で、UNIFEMに関する特別決議を出し、特別に協力すること、ODAの中での

特別の協力を要請したが、日本は特に発言しなかったのか。協力と、わずかではあるが増額することを発言した。

Q デンマークなど三か国の青年代表は、政府代表として参加したのか。また、障害者はオブザーバーか。

青年は私と同じ、代表ではないが、代表団の一員である。障害者はオブザーバーの人もいたし、代表団の人もいた。

Q カリファ・レポートに抗弁したとのことだが、準備さ

五十団体のネットワークの熱気に感嘆

十一月十七日、衆議院憲法記念館講堂で「平等・開発・平和」をテーマに開かれました。主催は〈国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会〉。まず加盟五十団体の紹介があり、〈あごろ〉も紹介されました。世話人中村道子氏の基調報告のあと、各界からのメッセージに続いて「政策決定参加」「労働」「家族・福祉」「教育・マスメディア」「平和・国際協力」の各分野の発表があり、各地で活動している参加者からの切実な提案が出ました。刻みの正確な進行に、初参加の私はただただ感嘆し、緊張しました。

特別提起の「国連婦人開発基金（UNIFEM）への協力を強めるため」で、ビデオ「フィリピンのUNIFEM

れた書面で抗弁したのか。

その場で挙手して発言したわけではない。書面は準備されたもの。抗弁者は大使。

Q 江尻さんは準備書面に手を入れてスピーチされたとのことだが、請訓を受けた後、発表されたのか。

そのとおりです。ついでに言うとうち、八部門のうち、私はcとdでスピーチ、大使がa・b・f・h、高木参事官がe、gは外務省のベテラン宮田氏だった。（文責 編集部）

一九九〇年民間女性会議

プロジェクト」が上映されてホッとしました。発展途上国の女性たちが、経済的、社会的に自立するためには、小さくとも具体的な経済的援助が必要なのだと、一頭の豚から始まった村起こし、女たちが頑張り、次第に協力的になる男たちの様子が生き生きと写し出されて圧巻でした。しかし、インドの留学生Jマリガンさんが切々と訴えた話がよく聞きとれなかったのが残念でした。

最後に、決議案と、開発途上国の女性のための「UNIFEM」を支援する特別決議案が採択され、女性の地位向上実現のため、さらに連帯を強めていく決意が強く示されました。各団体の会員総数は三千万以上とか。これが全部立ち上げれば日本は変わる！と感じた一日でした。（政）

女の△口從連衡

大原悦子

「朝日新聞の女性記者は大物女性記者をトップに四つの派閥に分かれ、反目し合っている」という噂がある。最近、ある女性雑誌にこんな記事が載っているのを見つけた。

「ねえ、知ってた？ 私たち四つの派閥に分かれてるんだって」。早速、同僚の女性たちにも見せる。「どれどれ。やだ。私の名前が出てるじゃない」と、トップの一人に挙げられたSさん。「じゃあ、いつも私たちがお酒飲んで騒いでいるの、あれ、派閥の連帯を確かめ合っている、ってコトだったんだ。アッハッハ」。記事を囲んで私たちは大笑いした。男社会の新聞社でも、ようやく「派閥」がある、という噂が出るほどまでに女性が増えたんだなあ。そんな思いと同時に「でも、ねえ」と、いういやあな気持ちにもなった。案の定、しばらくするとこの記事は男性記者たちの恰好の話題に。「で、やっぱり、本当なの？」とわざわざ聞きに来る人も現れた。

九年前に入社して地方支局に配属された私は、その支局で初め、たった一人の女性記者だった。仕事のうえでは男も女もないとはいえ、女性一人という孤立感はいつもつきまとうた。そんな時、支えになったのが他の支局にいた同期の女性記者との深夜電話。「女の視点」で書け、と言われるけれど、上司の言う「女の

視点」って、何か違うと思わない？」「男の記者たちは陰でブツブツ文句言ってるのに、いざとなると何でもみんな素直に仕事するんだらう」。一時間でも二時間でも、ホットラインで話し続けた。くたくたに疲れて帰った夜でも、ツーカーの会話が何よりも心地よかったからだ。

本社勤務になって、まわりに女性の同僚や先輩がポツポツいることがわかった時、だから素直にうれしかった。からだのこと、仕事のこと、私生活のこと……。お茶やお酒を飲みながら、女同士、気兼ねなくワイワイやることで、ストレスを発散し「うん、頑張ろう」という気にもなる。「この人といれば将来、異動や出世に有利だらう」などという計算とは無縁のつきあい。そして当然のことながら、女の中にも気の合う人もいれば、合わない人もいるものだ。

ところが、多くの男たちは女たちが仲よくしていれば「密談している」か「派閥を作っている」、仲が悪ければ「だから女同士は難しい」ととる。「心地いいから一緒にいる」。こんな単純明快ですてきなことが、どうしてもわからないのだからう。

「女の時代」と持ち上げながら、一方で女たちの団結を必要以上に恐れている男たち。「女の闘い」「女の敵は女」という言葉が大好きな男たち。新聞社の半分は女が占める時代が来て、本当の女の「派閥」が生まれるような時代が来るまで（人数が増えれば男のような派閥ができるのだろうか）、彼らの「分断政策」にはのるまい、と思う。

(朝日新聞記者)

羊

新年の
おめでとうを
お伝えします

自由は奪ってはいけません
大きくての中を自由に動きたいのです
昨年は本当にありがとうございました
皆様も、ご健康をお祈りいたします

一九九一年 正月

土井たか子

平塚市西津門町十の二サトビル二〇六号
平塚市東部千代田区本町二の二の一
東陽院第二議員会館三〇号室



あけまして
おめでとうございます

一九九一年一月

「朝日」ヤール編集部

下町

東京都中央区築地五十三二
電話◆〇三三五四五〇三三二
〒104-11

あけまして

おめでとうございます

一九九一年元旦

〒一六四
東京都中野区東中野二一〇一四

藤田たき

あけまして

おめでとうございます

中東紛争、高齢者十ヶ年戦略、女性の健康と人権、ODAと環境、ストリートチルドレン、「子供の権利条約」、エネルギー問題と、昨年取り組んだ仕事は多岐にわたりました
国会へきて二年目になりますが、みなさまのお陰で充実した日々を過しております。今年もよろしくお願い申し上げます

一九九一年 元旦

フレイ、フレイ、あたら
全国の女性のみなさん。

〒133 東京都文京区本郷五十二九一三二一〇〇三

堂本 曉子

五

六四

不確定性、時代をとと
いわれる中で、
ゆるぎなき交柱
平和憲法のロマンも
より強く求めていき
たいと思ひます

草、美会 島田信子

明
リ
き
ふ
め
ひ
い
ふ
ふ
ふ

日チ連、仁事に迫られ、ふと死してしまふ。
 足利は、かうかう川に佐氏、日チ連は、烈學
 雨林の破壊、状況を知えに、見えき、ん。

ふん、一丸を方に
新放花に手雪、
アシアウ園へハ
思ひ

[illegible]

「司馬人叔」
とある。一

あゝ
皆
こ
建
不

一九九一年一月一日
子護之井田恵子

あけまして
おめでとーうございます

昨年は激動の1年でした。今年
私たちが目指すにはならないこと
が沢山あり、フル回転しなけ
ればと、思っています。

今後もよろしくお付き合いします。

1991.1.1

在田谷之下馬5.74.26304
味岡尚子

“愛”を説くイエスが無力だったように、“無原則”をつかぬく〈あじう〉も又生々しいのは宿命。

で、~~最終的に~~人に
お世話なのはやはり愛。

無償飼育に人を受け入れ
傷付きながらそれを忍
びに生き延びたゆえに
「あじふ」

という場合にやむを得ずね。奥11)



早く男女が平等に生きられる世の中が欲しい。「男は「女は」と分けられるのはたまらない



男子と一緒に、生活のいろんなことや、家族について考えるほうが楽しい！私は今のところシングルで生活したいと思っているけど……

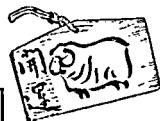
家庭科の男女共修をすすめる会
〒151 東京都渋谷区代々木2-21-11 婦人会館内

がび、流しホ都問習願
に伸交ハ人各の。学お
した隙・老、通たすお
かで四國より共し事う
う忙順。人バ所たのま仕
よもた市ノ役し性しも
し、事し市ノ学女た年
でて仕ま飯ヲ。見、い木、
りし。き大ミたをしを、すわ
ごまたでは、し設流いはに賜
過りしがでして拙と交換切じを
おとでり動しし施とお大存導。
にに年と括とお福話話をと指すにののた
か私いの員助の団て験いごまめ様
やは多に史一をど性い体たまし始皆
健康の共性のクムな女ののみたもの
お昨日身女樂ルメのにこ訪木い年け

実心事ブ一市題にい上

自宅 大阪市東淀川区東淡路1-5-2-443
 TEL 06 (329) 3 3 6 4
 会社 大阪市東淀川区東淡路3-4-18
 TEL 06 (322) 2 2 0 3
 FAX 06 (320) 3 4 1 3
 (有限会社 芳泉 企画)

〒535 大阪市旭区大宮 4-20-29
TEL 06-952-9430 FAX 06-954-4923
金谷研究室・Room Sigma



（新卒のご挨拶はさしつかえます）
関西へ移住して新しい生活を始めました
一九九一年の予定

● 2月2日 午後6時
びいどろほおる オープンパーティ

講演は芝居映画、コサート・ビル・Cの100席くらいの貸し
ホールのおひろめです。比自さまおりで下さい。

● 2月 「老いの住宅大作戦」(三省堂)出版予定

● 3月「比叢文庫」のメッセージ上(朝日新聞社)出版予定

● 4月7日
ウーランドスクリュー（600、2500名）

大府吹田市江木町1-15 SH江坂 駒尺喜美研究室

賀正

古賀節子

古賀美礼

古賀志信

古賀志洋

東京都田無市本町一丁目

一九九一年元旦

A HAPPY NEW YEAR!



本年も良き年でありますよう
心よりお祈りいたしております

平成3年元旦

〒164 東京都中野区中野2-13-14
電話 03(3380)6945

中野区女性会館

'91 迎春

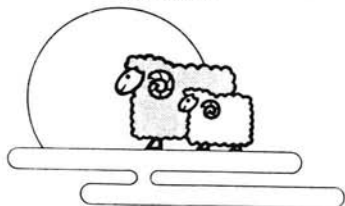


劇団はぐるま座 〒753 山口市旭通り1丁目6の4
☎0839(22)2589

あけまして
おめでとうございます

皆様のご多幸をお祈り申し上げます
本年もよろしく願い申し上げます

平成3年元旦



今年も元氣印で参ります



株式会社 アイ・コーポレーション

代表取締役 石川由紀

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目10番7号
グロリア宮城ビル 1004号室
TEL 03(5485)5212
ウィメンズ・マンデー部
〒150 東京・玉川郵便局私書箱56号
TEL 03(3701)8822・FAX 03(3701)2254
(自宅) 東京都世田谷区上野毛4-19-12

あけまして おめでとう ごさいます

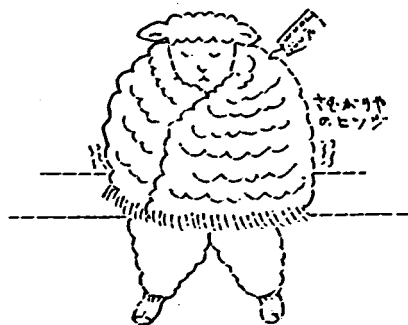
1991・初春

「小森カッ代・スタッフ同」

小 林 カッ代
か

〒158 東京都目黒区中目黒3-27-24
ミドリックスプラザ307
TEL 0424-21-5270
FAX 0424-21-5255

スタッフ一同



本年もよろしくお願ひ致します。

迎 春

ベトナムへご協力いただきました 800台の
ミシンは多くの女性たちの自立にむけて お
役に立たせていただいております。6月には
ブントオの国際平和文化村などベトナム各地
への旅を企画しております。
ご希望の方はご連絡下さい。

1991年

高 橋 ま す み

高橋学習センター

〒459 名古屋市緑区大高町伊賀殿107

TEL (052) 622-4 9 2 6

FAX (052) 624-6 9 5 0

東海BOC

〒460 名古屋市中区栄三丁目28-2

TEL (052) 251-9 0 6 4

1991年

迎春

昨年マスコミの犯罪報道は被害者と容疑者を左
晒しにしました。
十二月二十日、札幌道庁の遺体発見された事件では
テレビがその日のニュースで被害者の顔写真を公表し、著衣
に「犯水」と表現。二十四日には、民放各局が事件を大々的に
報じました。あるワイドショーを例に挙げれば、遺体の傷あと
を生々しく表現したり、衣服の紐子に細かく説明したりと、
視聴者興味をとり上げ方。女性被害者となつた場合に
見られる、プライバシーを暴露、パンの性暴力が繰り返されてい
る九九年十月から、天竺の一枚が他のメディアに失敬被害者の呼称
情を露出。又、他の一枚は、昨年より被害者・容疑者の顔写真を
掲載を原則的に取り上げました。このように新聞を中心にマスコミ
の自己改革が進む。昨今のテレビ、雑誌にワイドショーの被害者
を晒し、モノにする報道は、厳に慎まれねばなりません。今後七
一市民として批判の声を挙げ、当事者の完全な報道決定
に向け運動を続けていきたいと思います。

市川 雅彦

謹んで新春を
お慶び申し上げます

旧年中は色々ご支援をいただき、
有難うございました。本年も何卒
よろしくお願い申し上げます。

平成三年 乙未

〒558 大阪市住吉区万代四丁目二一三二

大阪戦災被害者・遺族の会

代表者 伊 賀 孝 子

電話大阪06六七二一二三六七

A HAPPY NEW YEAR

旧年中はお世話になりました。おかげさまでニコニコ離婚講座も13年目を迎え、離婚110番もボランティアの人たちに支えられ全国的に利用されています。相変わらず講座の会場確保に苦勞し、110番独自の部屋も持てない状況で見通しはちっとも明るくないのですが、毎年よいし今年こそベストセラーを出してビル位建てるぞーと意気だけは軒高!

1月「ターニング・ポイント(女が別れを告げる時)」(新潮社) 3月「再婚時代」(筑摩書房) 4月「神話を失くした男たち」(ちくま文庫) 5月「離婚女性成功物語」(時事通信社)を出します。

今年もどうぞよろしくお願いします。

1991年1月 円より子
〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-23-504
TEL 03-3402-7354/FAX 03-3402-4385

新年おめでとうございます。

新しい年を迎え、ますますご隆盛のこととお喜び申し上げます。本年は、旧年突如国会提案された「国連平和協力法」は廃案となりましたが、湾岸危機は解決されることなく緊迫した中で迎え、国際緊張の中の日本の進路を決める大切な年となりました。私共同盟は創立の理念「婦人の一票は平和のためにこそ」を基本姿勢として歩みつつたい所存でございます。

変わらぬご交誼をお願い申し上げます。大変遅くなりましたが、年頭のご挨拶を申し上げます。

一九九一年一月

専二

東京都渋谷区代々木二二二-11-11
日本婦人有権者同盟
会長 松浦三知子



おめでとうございます。

世界のすべての羊に平和を……と祈っております。今年には統一地方選。一人でも多くのフェミニストが当選して日本の風も水も浄らかになりますように。立候補なさる方、ご推薦の方、お知らせください。誌上でご紹介し、みんなで応援したいと思ひます。今年も私たちのネットワークで流れを変えましょう!

一九九一年 元旦

〒1180 東京都新宿区新宿一の九の六

あこら

ありがとうございます

お陰様で27歳の春を迎えました。

お育てくださいました皆様のご厚意に

心から感謝申し上げます。

新年のごあいさつを言上します。

27年経ってまだ花は開きませんが、

大地にしっかりと根づいた感触は実感できるようになりました。

30歳には花を……と願っております。

ことしもよろしくお暮さくださいませ。

1991年1月1日



創造力 BOC 〒160 東京都新宿区新宿1-9-6
の銀行 TEL 03-3354-3941 FAX 03-3354-9014

東海BOC 〒452 名古屋市中区栄2-38-2
TEL 052-251-9064 FAX 052-624-8550



金が信憑
V.S
健康幸念



一九九一

豊かなお正月をすべての人々へ…
豊かて健康なお正月を建てて迎えられてよい筈です。その中に
①真に平和で差別のない社会である事 ・福祉福祉の廃止も
・郵政中立の日本も（反林・反安保・反基地・反自衛隊）
・東洋の四人の釈放も ・全ての政治団に公正で透明な裁判
・全ての四人への「帰国・死刑」の廃止も（日本も死刑廃止も）
②搾取のない社会である事
・ひたいに昇してゆく者が主人公である社会も
・ゴミ・エネルギー・資源を再考して計画経済社会も
・腐敗のない、自由と民主主義の確立した社会も
がとりあえずの条件になってくると思う。そんな社会を目指して、
奮発に学び、そして実践行動してゆく一年にしたいと願います。

日本の国歌は「君が代」ではありません

・国歌は「日の丸」ではありません

そこで提案 ♡ を国歌にしよう。 LOVE & PEACE

元日恒例の「共産党宣言」を読むが NO12を解
きました。「豊かと健康の違いは、豊かには共産党が
なくったが、米田には共産党がある」の主張に愛憎
されるように、社会主義に未来はないのイメージが
あります。が、日本の現実を見れば、資本主義こそ
未来がありません。自由競争によって作られた大量
のモノ、もう捨てる所がなくなりつつあるゴミの山、
エネルギーとゴミ問題の解決には「何が多の社会生
活にして最も必要なか」の民主的討議・合意に
基づいた計画経済—社会主義社会が成り立ちます。
オセ世界と、資源・エネルギーをわがちあって、日
本の生活水準が、多よりも不便に、貧しくなるとも
いいじゃないですか…。みんなが平等になるのなら、

一昨年「自由」という名の自由の強迫に、恐し
い体験をしたが、去年は、123億円を使った天皇ヒ
レモニーに、憤りと共に憎しが。た。四重平均増力
派（自衛隊増強派）は—たつが、共産
体託託に天皇陛下がイラクの人質に変わったとして
自衛隊増強派、人質の命を懸けてとらさうのやな
と願います。

豊かて健康になりました。

山形県尾花沢市大字尾花沢

3262 菅野真治

又は尾花沢市新町3丁目。

去年の年賀状をみて
改めてビックリしています。
500万円の赤字だった
のですね。今年はいく
らになってますか。年賀
の収支を「あくら」にのせ
て、カンパをつのりみて
は…。1991・1・2
・毎朝日・ロ・シ・ウ・ホ…

「花の乱」だより20号*年賀状に替えて*1991・1・1

かなりの間、ご無沙汰しましたが、新評論に不当解雇撤回を求める裁判
は続いています。

1990・9・28 出版労連 堀根秀人氏への主尋問と反対尋問

1990・11・16 二瓶社長への反対尋問と藤原良雄氏への主尋問

そして

1991・3・15（金）10時～ 藤原良雄氏への反対尋問

もしこれで「結審」となっても、判決がいつ出るかは裁判所次第、半年
後かも知れないし、一年後かも知れない、それが裁判の仕組みなのだそう
です。それなら、さらに長期戦を覚悟してと、「花の乱」だより21号は、
16ページ、ハガキ大のミニパンフにするつもりです。20万の予算で、
3000部、引き受けてくれる方を探しています。 片岡 陽子

毎月一回し・ようこそさんを囲んで「自立」を考える学習会。今年は「自立の学習を行動につなぐ」をテーマに学習を行動に結びつける方法を話し合うことにしました。第1回は2月28日(木)「中東危機と自立」を具体的な柱としてフリー・トークングします。七時〜九時へあごら読書室(地下鉄丸の内線「新宿御苑前」大木戸口下車スグ。03-33354-3941へどうぞ。

自立の心理学 新メンバー募集

1991年 女のセクシュアリティを取り戻そう

あなたのまわりのセクシュアル・ハラスメント状況はいかがですか。福岡で、性的いやがらせを性差別として訴えてから、1年半たちました。昨年は、マスコミでのトレンディ扱いもあり、個人的な嗜好の問題でなく、社会的な人権の問題であるという認識が広がってきました。

裁判は、原告への尋問、そして被告側兼長への主尋問がおわり、現在私たちの弁護団(女性弁護士17人)による反対尋問が行われています。その中で「セクシュアル・ハラスメントはこれまでの一般常識で判断してはいけない。この現象こそが性差別なのだ」と、明確に訴えています。これからまだまだかかりそう、どうぞご支援ください。

各地で、女のセクシュアリティに対する差別(攻撃)にたいして、立ち上がる女達があります。そして、ネットワークもできています。共に声をあげ、より輪を広げ、今年こそ自分の手に自分の性を取り戻したいですね。連絡をお待ちしています。



福岡市中央区天神1丁目3-39福岡信成ビル6F

女性協同法律事務所内

「職場での性的いやがらせと闘う裁判を支援する会」

郵便番号 福岡7-60420 年会費3000円

あけまして
おめでとうございます

1991年 元旦

〒156 東京都世田谷区経堂2-27-4
(03) 3428-3322

東 浦 め い

原稿募集！ 即時停戦 —— 私は行動する

あなたがなされたこと、これからなさること、
仲間と呼びかけて一緒にしたいこと……何でも
書いてください。ハガキ1枚でも、何百字でも……。

〒160 東京都新宿区新宿1-9-6 あごら編集部

あこら編集部

〒160 東京都新宿区新宿1の9の6

TEL 03 (3354) 3941

振替・東京0-5264

今こそ戦争阻止に立ち上がろう！

一月号を印刷しようとした今、衝撃的なニュースが世界を走りました。涙があふれました。八月以来、私たちは平和を——と叫び続けました。しかし振り返ってみると、まだまだ弱かった。それぞれの抵抗の微弱さが、今日の結果になったのだと思います。

今朝の第一報でまだ詳細はわかりませんが、予想されたように、多国籍軍は、あらゆる新型兵器を試用しているようです。『有色人種日本』で核を試したように、『異教徒アラブ』で生体実験をするのでしょうか。されはまきれもない地球破壊です。人間が人間を、なぜこれほどまでに制裁しなければならいのでしょうか。

日本の外相はアメリカに飛んで、軍事費の拠出を約束しました。財源として赤字国債が発行されるにせよ、石油税が課されるにせよ、それはインフレを招き、庶民は痛撃を与えるでしょう。それにもまして大事なものは、私たちの血税が、罪もない他国の人民を傷つけるために使われること、私たちのすべてが戦争に協力することになることです。政府がこの政策を強行するなら、政府を変えるほかありません。私たちは即時停戦の署名を集めて、日本政府のほか、サダム大統領と多国籍軍の各国政府、国連に出します。壽岳さんのことばにあるように、今こそ「できることはやりましょう」。

■〈楽しい英語教室〉新メンバー募集

シモンズ先生を囲んで、自分のこと、フェミニズムのこと、世の中のことなど、英語でおしゃべりしながら自然に覚える初心者向けの楽しい教室。会費は月3,000円プラスα（500円程度）です。毎週月曜日6時30分～8時。試験歓迎。場所は〈あこら読書室〉新宿から10分 電話03-3354-3941です。